

## [報告]

## 若年層骨髄ドナー登録への取り組みについて

沖縄県赤十字血液センター

溝口昌一, 新里ユカリ, 古堅奨布, 知花 一, 松田なつ美, 新村祥子,  
眞喜志淳, 山城幸広, 上江洲富夫, 上間 昇, 大久保和明

## Regarding efforts to register young bone marrow donors

Okinawa Red Cross Blood Center

Shoichi Mizoguchi, Yukari Shinzato, Shobu Hurugen, Hajime Chibana, Natsumi Matsuda,  
Shoko Shinmura, Jun Makishi, Yukihiro Yamashiro, Tomio Uezu,  
Noboru Uema and Kazuaki Okubo

## 抄 録

55歳で年齢超過によるドナー取消しとなる骨髄バンク事業は、血液事業以上に若年層登録者の確保が課題となっている。

本課題への対策として、沖縄県赤十字血液センターでは、沖縄県骨髄バンクを支援する会と連携して、高等学校・各種専門学校・大学等での骨髄ドナー登録会取り組みを強化した。

その結果、平成28年度新規登録者2,129名の内、20歳未満が1,102名と過半数を占め、20歳未満登録者数は前年度より43%増となった。

本結果を受け、今後も若年層骨髄ドナー登録者確保に向け、継続した活動を展開したい。

Key words: bone marrow donor registry, young marrow donor

## 【はじめに】

沖縄県赤十字血液センター（以下、当センター）では、固定施設である「くもじ献血ルーム」に加え、移動採血および出張採血（以下、併せて移動献血）においても、骨髄ドナー登録希望者の受け入れを行っている。

当センターでは移動献血用資機材として、骨髄ドナー登録に必要な各種書類および検査番号ラベルや骨髄ドナー登録者用の採血管等の資材を移動献血バスに常備している。各種書類には、ドナー登録のしおり「チャンス」以外にも、「骨髄バンクドナー登録者情報変更記入用紙」も含まれ、移動献血においても、骨髄ドナー登録者からの住所変

更や保留依頼等の申し出に対応している。

なお、沖縄県では、「沖縄県骨髄バンクを支援する会」（以下、支援する会）が中心となって、「骨髄ドナー登録会」（以下、登録会）をくもじ献血ルームにおいて平成9年12月から実施してきた。さらに、平成11年11月からは移動献血並行型としても実施してきた。

ここで沖縄県における近年の骨髄ドナー登録者状況を示すために、平成19年度からの新規登録者と取消者数の推移を図1に示す。

とくに、平成21年8月から平成24年3月まで国の緊急雇用創出事業（以下、雇用創出事業）を利用して、支援する会が骨髄ドナー登録説明員を3

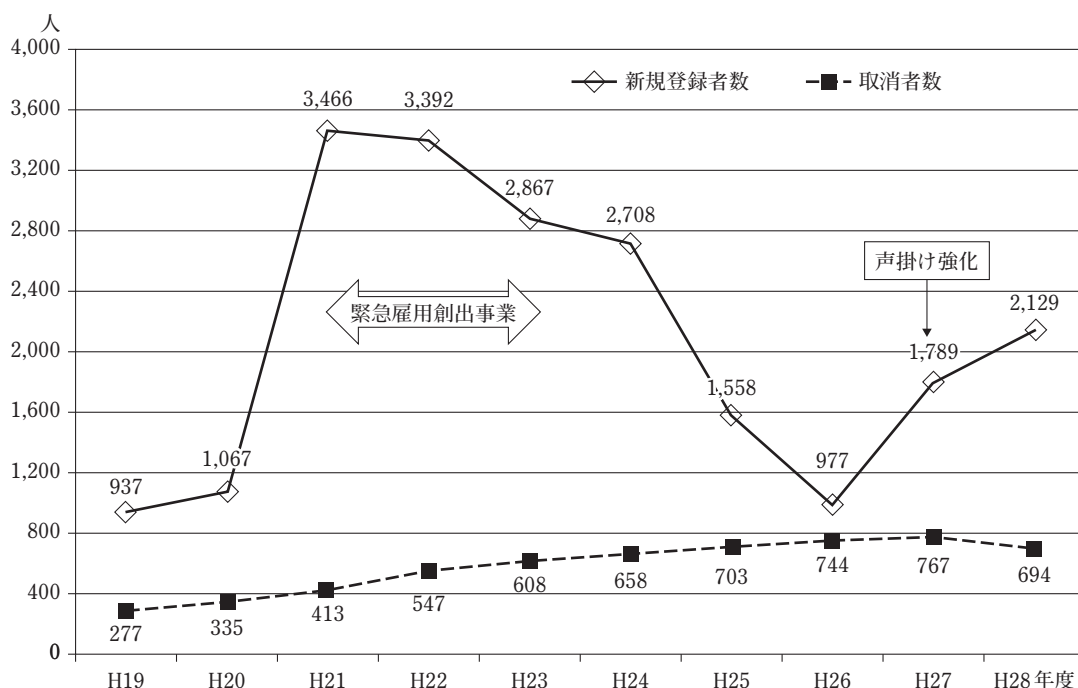


図1 沖縄県の骨髄ドナー新規登録者と取消者数の年度推移

名雇用して献血並行登録会を行った。これにより、それ以前の月別の骨髄ドナー登録者数（以下、登録者数）の平均81名（平成19年1月～平成21年7月）に対し、雇用創出事業中の登録者数は月平均295名となり、大きな成果を挙げた。雇用創出事業は平成23年度で終了したが、その頃白血病と診断され骨髄バンクに患者登録したが適合ドナーが一人も見つからない高校生のことが県内新聞記事に載り、しばらくして同患者の家族から登録者を増やす活動を続けてほしいと要請された。支援する会が説明員を雇用し、雇用説明員による登録会を継続することにしたが、財政難から平成25年6月末で雇用は終了した。

雇用説明員による登録会が終了すると、沖縄県における新規登録者数は大幅に減少し、平成25年度は1,558名、平成26年度には977名と、年間の登録者数が1,000名を割る事態となった。

一方、年齢超過等による骨髄ドナー取消者数は年々増加しており、このままだと取消者数が新規登録者数より多くなることも懸念された。

そこで、平成27年度から新規登録者数増加対策として、支援する会の登録説明員が参加する献血会場では、血液センター職員が献血者に骨髄ドナー登録説明を受けることができる旨の声掛けをすることで、骨髄ドナー登録者を増加させる取り組みを始めた。これにより、平成27年度の新規登録者数は1,789名になり、前年度の登録者数の倍近く的大幅増加に転じた。さらに平成28年度は、高等学校、各種専門学校および大学等での登録会を強化したところ、若年層骨髄ドナー確保に一定の継続した効果が得られたので報告する。

## 【方 法】

### 1. 高等学校における登録会の展開

平成27年度は高等学校で17回、各種専門学校で29回、大学で22回献血並行登録会を開催した。各種専門学校・大学では昨年以上に実施回数を増やすことは難しく、平成28年度はとくに高等学校に重点を置き、登録会の開催回数を増やすこととした。

## 2. 支援する会との連携の強化

過去の雇用創出事業実施期間における骨髄ドナー登録者数の大幅な増加は、雇用説明員による献血者への積極的な声掛けが行われていたことが要因であると考えられた。

そこで、平成27年度から移動献血では、献血係職員は骨髄ドナー登録説明を受けることができる旨の声掛けを行い、骨髄ドナー登録希望者への登録説明は支援する会の説明員が対応するという連携体制を構築した。

具体的には、主に問診回答用タブレット端末操作後の献血者に、献血係職員から声掛けを行った。時には受付確認票記入後、骨髄ドナー登録の声掛けを行うこともあり、その場合の登録希望者には先に登録説明を行い、登録手続後に献血者情報入力を行った。その際、無理にドナー登録に誘導することのないよう、声掛けは一度のみ行うこととした。

また、説明のバラつきおよび説明漏れをなくするため、骨髄ドナー登録の流れをイラスト入りでまとめた独自のラミネート説明版を作成した。同説明版の導入により、登録の流れを具体的に説明でき、かつ短時間での説明が可能となった。

## 3. 職員の骨髄ドナー登録説明員養成講座の受講

移動献血において、支援する会の説明員が参加していない場合、受付および接遇の職員間に骨髄バンクに関する知識に差があるため、骨髄ドナー登録を希望する献血者への対応に苦慮する場面が見受けられた。

そこで、支援する会の説明員を講師として献血係職員全員に対し、骨髄ドナー登録説明員養成講習を行い、声掛けをする職員の知識向上を図った。

### 【結 果】

#### 1. 高等学校における登録会の強化

平成28年度、高等学校における登録会を32回実施したところ、606名(登録会1回平均19名)の登録が得られた。

平成27年度は、登録会を17回実施し、登録者数が307名(登録会1回平均18名)であったことから、実施回数、登録者数とも、平成28年度は

前年度のほぼ倍となった。登録会実施回数を増やすと登録者数が増えていることから、献血を申込み高校生は、一定の割合で骨髄ドナー登録を希望することが分かる。これは、高校生対象の登録会強化が若年層骨髄ドナー確保に繋がることを示している。

なお、平成28年度は各種専門学校で登録会を31回(前年29回)実施し、登録者数は572名(前年559名)で1回平均18名(前年19名)であった。また、大学では登録会を19回(前年22回)実施し、登録者数は220名(前年255名)で1回平均12名(前年12名)であった。各種専門学校と大学の登録実績は前年度とほぼ同じであった。

その結果、平成28年度新規登録者2,129名の内、20歳未満は1,102名と過半数を占め、20歳未満登録者数は前年度より43%増となった。全国の20歳未満登録者数3,883名の28%を沖縄県が占めた。平成28年度における沖縄県の年齢別新規登録者数を図2に示す。

## 2. 支援する会との連携の強化(献血への影響)

支援する会との役割分担を行ったことと、骨髄ドナー登録にかかる説明の効率化を図ったことで、高等学校における1台当たりの献血者数は、平成27年度35.3人に対し、平成28年度は37.6人になり、1台当たり平均2.3人増加した。支援する会との連携を強化したことによる、献血者受入業務への影響はなく、声掛け強化後も前年度と変わらない献血者を確保することができている。

また、沖縄県の登録者数は、献血係職員の声掛けを強化した平成27年度からの増加傾向を維持し、平成28年度は2,129名と、前年度より304名増加した。

## 3. 職員の骨髄ドナー登録説明員養成講座の受講

骨髄ドナー登録説明員養成講座受講により、支援する会からの説明員が参加していない場合でも、ドナー登録希望者がいた場合は献血係職員による均質な説明と受入手続きを行うことが可能になった。

また、同養成講座を受講した職員は、骨髄バンク制度をより深く理解したことから、若年層骨髄

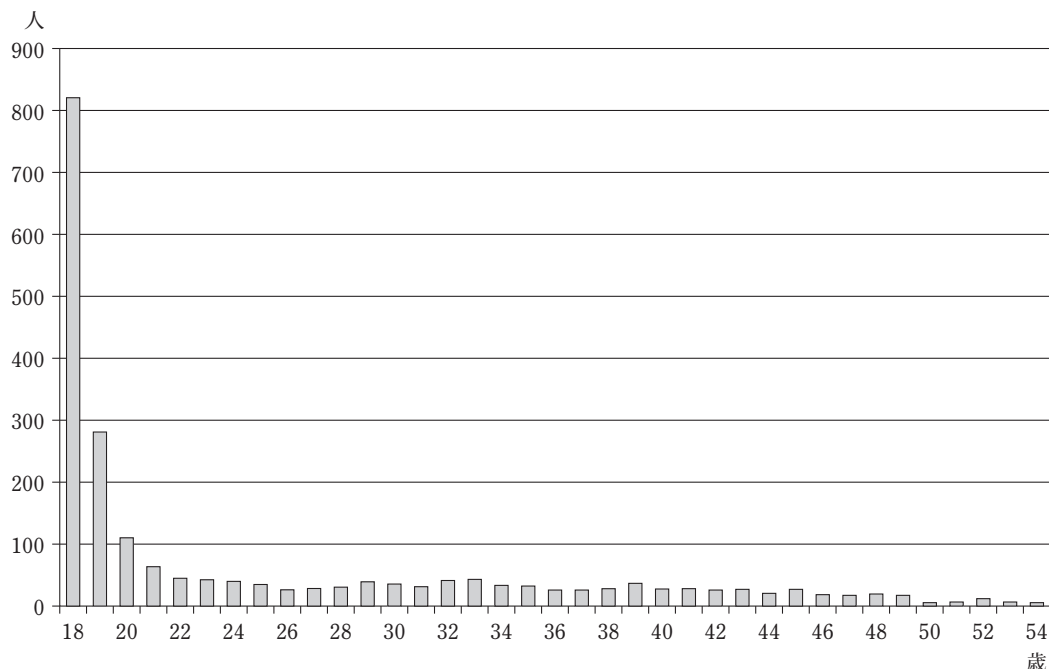


図2 沖縄 年齢別新規登録者数 平成28年度

ドナー獲得への意識がより主体的に変わったことも、ドナー確保の一助になった。

### 【考 察】

献血に参加する高校生等の若年層はボランティア意識が高いと思われ、骨髄バンクの意義を伝えることで登録する生徒が多くいる。高等学校等における登録会が若年層骨髄ドナー確保に有益であると考えられる。

若年層は、進学や就職等で住所変更になる可能性が高いが、登録説明時には住所変更の手続きについて強調しており、平成29年3月末の実登録者数に占める住所不明者率は沖縄県12.3%であり、全国平均の15.2%より低かった。献血者情報から登録情報を更新する取り組みが始まったので、今後住所不明率は改善されてくると期待される。

### 【今後の課題】

沖縄県における高校献血は、卒業献血として1月下旬から2月上旬に集中するため、1日に4校同時に実施することもあり、すべての献血会場に支援する会の説明員が参加するのは困難である。平成28年度は高校献血を47回実施したが、うち15回は説明員の参加はなかった。

当センターにおける骨髄ドナー登録希望者の受入体制の改善および支援する会からの説明員派遣の増員により、さらなる若年層の登録者増加が見込まれるであろうことから、今後検討すべき課題である。

若年層骨髄ドナーの確保は急務であることから、今後もより一層の若年層骨髄ドナー登録拡大への取り組みを継続する必要がある。